

無理しない 当事者活動とその支援

言語化しにくい・しない思いに寄り添う支援を考える

2025.8.24(日) 場所 なか区民活動センター
横浜市中区日本大通35 中区役所別館1階

第一部 10:00~12:00

STAND Stillの作品から、写真が可視化する当事者視点について学びます。

第二部 13:00~15:00

第一部を踏まえ、STAND Stillと同じ方法論でワークショップを体験します。

※片方だけの参加可

定員 各回30名

参加費 各回500円

両方参加の方は800円

第二部では事前に課題が出ます。課題テーマは申込者にお送りします。スマホで撮影可能です。提出された作品は印刷し皆さんで共有します。

申込み先: STAND Still事務局

メール: standstilljapan@gmail.com

または下記QRコードよりお申込みください。

メールからお申し込みの方は、お名前、ご所属、メールアドレス、参加希望(午前のみ、午後のみ、両方参加)をご記入の上

お申し込みください。

託児をご希望の方はイベント開催6日前の8月18日(月)までにご相談ください。



この活動はカウンセリングではなく表現活動です。ご承知おきの上ご参加ください。

主催: STAND Still

共催: なか区民活動センター [よろずアップ企画]

助成: 横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト 2025

ヨコハマアートサイト

STAND
WE BELIEVE still



STAND Stillについて

2019年フォトジャーナリスト大藪順子が始めたプロジェクト「STAND Still-性暴力サバイバービジュアルボイス」に参加したメンバーが団体STAND Stillを設立。性暴力サバイバーにとって安全とは言い難いこの社会で、自由に表現できる場を提供し、写真表現でエンパワメントを促すワークショップや展覧会を企画・運営する。

ファシリテーター 大藪順子(おおやぶのぶこ)

フォトジャーナリスト。米国シカゴのコロンビア大学フォトジャーナリズム科卒業後、米国の新聞社で専属写真家として勤務する。写真プロジェクト「STAND:性暴力サバイバー達」がアメリカでテレビドキュメンタリーとなった後、全米と日本各地で展示会と講演会を展開する。著者『STAND 立ち上がる選択』2007年フォレストブックス、共著『マスコミ セクハラ白書』2020年文藝春秋、監修『横浜(Koko)ー「外国につながる」ではひとくくりにはできない中高生の作品集』2021年明石書店出版。



STAND Still 写真集

『What Became Visible After STANDING Still その後 佇んで、見えたもの』

「性暴力サバイバー」という肩書きの向こうにいる人の存在と、サバイバーの視点に立った世界が見えてくる。購入申し込みはQRコードから、または当団体事務局メールstandstilljapan@gmail.comまで。



【今いの予定】

・ワークショップ：横浜市内(全6回)

日時：7/5, 7/26, 8/23, 9/13, 10/4, 10/25
全て土曜日午後 参加費：6,000円(学生半額)
時間と会場は参加者のみにお知らせします。

・写真展@横浜エイズフォーラム：8月1日(金)~3日(日)

トークイベント:8月2日(土) 13:00-14:30
参加費：無料
会場：かながわ県民センター

・トーク&朗読会：9月14日(日)午後

参加費：500円
会場：港区立男女平等参画センター・リーブラ

・写真展、トーク&朗読会

写真展：10月20日(月)~11月25日(火)
朗読会・トーク：11/22(土)午後
会場：とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ (大阪)



なか区民活動センター

〒231-0021

横浜市中区日本大通35中区役所別館1階

アクセス

JR関内駅(南口)より徒歩7分

市営地下鉄関内駅(1番出口)より徒歩7分

みなとみらい線日本大通り駅

(3番出口)より徒歩4分



上記イベントの
参加申込お問合せは
STAND Still事務局まで